

短期予報解説資料 2025年10月14日03時40分発表

気象庁

1. 実況上の着目点

- ① 強い台風第23号が日本の東を東進。東～北日本の太平洋側では、台風からのうねりで波が高く、東日本では、しけとなっている所がある。
- ② 500hPa 5760m付近の正渦度極大域に対応して、前線が華中～日本海西部にのびている。前線近傍の対馬海峡で雷を検知。激しい雨を解析。
- ③ 東シナ海には500hPa 5880m以上の高気圧に対応した地上の高気圧があつて東へ移動。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

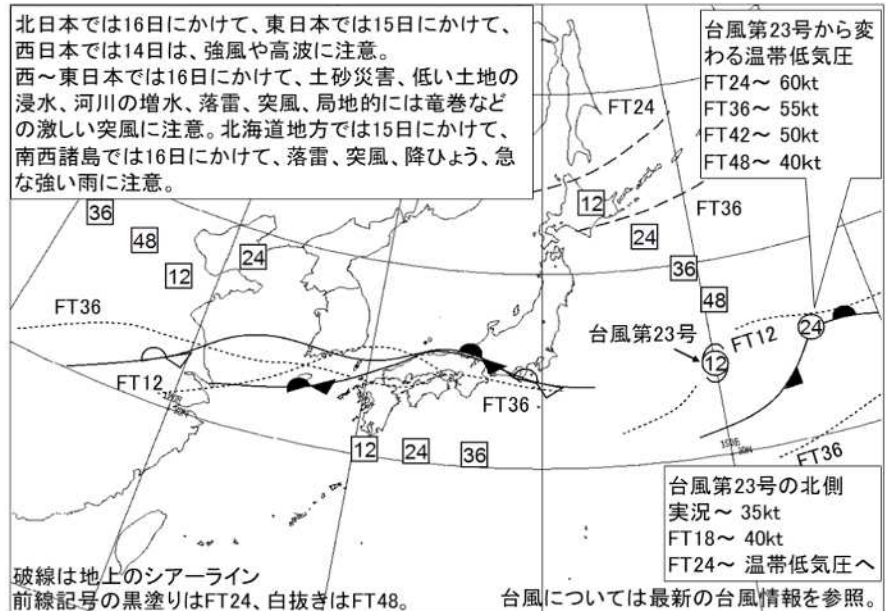
- ① 1項①の台風第23号は、日本のはるか東に進み14日夜までに温帯低気圧に変わる。北～東日本太平洋側では、台風の高波域からのうねりの影響で、波の高い状態が15日にかけて続く所がある。北～東日本太平洋側では、15日にかけてうねりを伴う高波に注意。
- ② 1項②の前線は、15日にかけて西～東日本を南下、16日は500hPa 5820m付近のトラフに対応して再び北上し、16日夜には前線上の三陸沖に低気圧が発生して発達しながら東北東進する。前線や低気圧に向かう下層暖湿気の影響で、西～東日本では大気の状態が不安定となり、局地的には非常に不安定となり、雷を伴い激しい雨が降り大雨となる所がある。西～東日本では16日にかけて、北日本では16日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷や突風、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。また、前線と大陸の高気圧の間や低気圧周辺で気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き波が高くなる所がある。西日本日本海側では15日にかけて、東北地方では16日は、強風や高波に注意。
- ③ 1項③の高気圧は、15日にかけて日本の南に移動するが、高気圧縁辺を回る下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となる所がある。南西諸島では16日にかけて、落雷、突風、急な強い雨に注意。
- ④ 500hPa 5460m付近で-27℃以下の寒気を伴うトラフに対応した地上のシアーラインが、15日にかけて北海道地方を通過する。シアーラインに向かう下層暖湿気や上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となる可能性がある。落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に留意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(06時からの24時間):多い所(100mm以上)はない。
- ② 波浪(明日まで):伊豆諸島・関東4、東北・中国・九州北部3m。
- ③ 高潮(明日まで):東～西日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。



主要じょう乱解説図